

役員をとおしてつなぐ 地域の輪

中里福寿会 森 悦子



わが家が池辺に
来たのは、平成2
年3月でした。マ
ンションが、小・

中学校が隣接していて近いことが気に入って決まりました。中学校の入学式の後役員になり、それから小学校や中学校の役員を交互にし、諸行事に加わり地域の皆様と顔見知りになりました。仕事もしながらでしたが、

今も多くの方たちと出会い触れ合っています。現在の小学校のPTA役員さんが、子どもの時に私が役員をしていたのを覚えておられ、声をかけてくださいます。地域や年代を超えて繋がっていることに嬉しくなります。

また老人会でも「以前役員を一緒にしたことを覚えていますか？」と声をかけていただき、20年くらい経つていても、楽しみながらしたことはいいい思い出になっています。自治会役員は平成10年から庶務をはじめとして、諸々の役員を兼任。現在

は自治会長や民生委員、他を兼任しながらですが、老人会に昨年から加入とともに、中里福寿会会長を引き継ぎました。前会長が動けなくなつた時「会議に行つた後、休会にしてください」との話で、すぐ区老連へ電話して長和副会長に相談しました。繋ぐために先輩に相談しましたが、私が兼任することにしました。初めての福寿会で分からないことばかりでしたが、皆様に助けていただ

いて進めています。中里福寿会もまたグラウンド・ゴルフを公園で始めました。クラブが

無くてもできるように、6本セットを買い、皆様が誘い合つて気軽に参加されています。他にできることがあれば相談しながら前に進みます。そして、認知症になつても皆と心穏やかに暮らせるように、認知症カフェへの参加も呼び掛けています。病気を知ってみんなで優しく見守り、見守られる地域にしていきたいと思ひます。

『小さな輪が幾つも繋がりに、大きな輪になりますように』
（このお話は「会長・副会長研修会」でお話いただいたものです）

忘れもしない東京大空襲

さわやかクラブ 安岡 重喜



昭和20年3月9
日の夜から翌日の
未明のことです
た。私は当時8歳

で、東京の芝白金に居住しておりました。木造家屋が密集して、隣には木造の2階建の小学校があり、近くには北里病院、聖心女子学院などがあるとあります。私の家族の兄2人は戦争に行き、

その日は父親も大阪に出張で、母と16歳の姉、12歳の兄、私の4人でした。その夜は台風並みの強風が吹いて、大人は神風が吹いていると話していました。夕食後、警戒警報発令のサイレンが鳴り響き、私たちは父親が掘って作った防空壕に避難しました。その時には東の方の空は火災で真っ赤に染まっていました。防空壕の中で私たちは静かにしていると、B29爆撃機の独特な不気味な爆音が聞こえてきて、とても怖かったです。

そのうち、外で大きな音がして、女性の声で焼夷弾落下の怒鳴り声が聞こえてすぐ外に出たら学校の2階の窓から火が噴き出ていて周りの家からも火が出ていました。母親は用意してあったリュックを背負い、防空頭巾をかぶって、姉と兄に付いておいでと声をかけて、私の手を引いて裏口から逃げました。大勢の人が逃げなくて振り返ったら姉と兄の姿は見えませんが、母親はどうするか迷ったと思います。狭い路地で逃げてきた人の波で戻ることはできず

人の流れに行くしかなかったのです。大粒でボタン雪のような火の粉が身の周りに降りかかる中を1時間くらい駆け足で火災のない目黒通り方面へ逃げて行く途中では、母の荷物を盗ろうとする人がいたり、聖心学校の牧場に立ち並ぶ大木に火が付いて風にあおられていたり、恐怖と寒さで体の震えが止まらなかつた記憶を鮮明に覚えています。空にはB29が低空で爆音も大きく、飛んでいました。知らない人の指示で目黒通りにある銭湯の中に避